

事例に学ぶ

ヒトにしかできない仕事に特化できる環境を作る  
 ～iPadを活用した生産管理システム～

中辻金型工業・(株)

中辻金型工業(株)は1974年の創業以来、プレス金型の設計・製作を中心に、銅やアルミなど、様々な材質のプレスや加工事業を展開している。また、最近では3Dプリンタを活用した金型づくりにも注力しており、金属型では成形できなかった複雑な形状もスピーディーかつ低コストで実現できる新しい技術も他社と共同開発している。



▲中辻社長

「DXへの取り組みは、少子高齢化で働き手が減少する中、労働環境

の改善のために、残業時間を減らさないといずれ立ち行かなくなるといふ危機感を抱いたことが始まりです。そこで業務フローを見直すと、生産管理と現場にタイムラグがある、現場での書き物が多いという2つの課題が挙げられました。」と中辻社長。

その課題を解決すべく、2018年、iPadと連動できる既存の生産管理システム“TECHS-BK”を導入。多品種小ロットへの対応が圧倒的に多い同社の生産体制において、製造設備のハード面に手を加えない同システムは導入コストや生産ラインの自由度から考えても最適であった。

「システム導入前は、一日の生産が終わってから日報を手書きする作業が1時間くらいかかりましたが、現在では帳票のQRコードをiPad

で読み込み、数量を入力して10分程度で完了します。自動的に生産管理にデータが送られるので、現場と生産管理でリアルタイムに情報共有できるようになり、急な依頼にも的確に対応でき、残業時間も約40%削減できました。」

導入当初は、システムを利用する側の作業員の思い違いなどでエラーが出ることもあったが、操作をシンプルにして作業を減らしたことで、1カ月ほどで全員が扱えるようになった。

「ここ数年で急速に自動化・IT化が進み、技術は機械が、経験はデータとして蓄積されるようになりました。これらを活用することで、まだまだヒトの手から離して半自動化できるところは沢山あります。ですが、最終的にはモノはヒトが作ります。DXはあくまでもツールのひとつなので、これを活用して、ヒトにしかできない仕事に特化できる環境を作ることが重要と考えています。」

DXを本格的に進めて約3年、既

存の生産システムでは小回りが効かない部分もわかってきた。いずれは独自の生産システムを導入して、製造現場の半自動化を進めていきたいと話してくれた。



▲iPadで帳票入力する現場作業員

中辻金型工業(株)

代表取締役社長 中辻 隆氏

所在地 東大阪市長田西

6-1-23

電話 06-6746-0056

従業員 20人



※ iPad は、Apple Inc. の商標です。